

# 「首相動静」でみる日米首脳会談

— 『外交青書』との比較 —

浅野 一 弘

1. はじめに
2. 『外交青書』にみる日米首脳会談
3. 「首相動静」でみる日米首脳会談
4. 結び

## 1. はじめに

首相動静 24日

安倍首相

【午前】 8時48分，皇居。オバマ米大統領の歓迎行事。9時53分，東京・元赤坂の迎賓館。10時29分，昭恵夫人とともにオバマ大統領と懇談。32分，オバマ大統領と首脳会談。

【午後】 0時39分，日米共同記者会見。1時42分，オバマ大統領と拉致被害者家族との面会に同席。58分，官邸。2時，菅官房長官。5時，国家安全保障会議。6時40分，皇居。オバマ大統領歓迎の宮中晩餐（ばんさん）会。10時7分，東京・富ヶ谷の自宅。

これは、2014年4月24日の安倍晋三首相の1日を伝えた、25日付の『朝日新聞』朝刊の「首相動静」欄の記事である\*<sup>1</sup>。この欄は、「前日の午前と午後には、首相が誰と会い、どこに行ったのかが詳しく掲載されており、「公人としての首相の動きが、国民にはっきり見える形」となったものである。それゆえ、ジャーナリストの池上彰は、「この欄を分析することで、日本の政治の、もうひとつの側面があぶりだされるのではないか」と語っている\*<sup>2</sup>。「首

相動静」欄を検証することで、ほんとうに、「日本の政治の、もうひとつの側面があぶりだされる」のであろうか。

そこで、本稿においては、『朝日新聞』の「首相相動静」欄に注目して、民主党政権下の日米首脳会談について考察をおこなう。ここで、日米首脳会談に着目するのは、「日米両国間の緊密な関係は頻繁に開かれた首脳会談によって彩られている」からである\*<sup>3</sup>。また、民主党は、政権交代のかかった第45回衆議院議員総選挙(2009年8月30日)の折りのマニフェスト(政権公約)においても、「主体的な外交戦略を構築し、緊密で対等な日米同盟関係をつくります」とするなど、自民政権下とは異なる日米関係像を模索しようとしていたからである\*<sup>4</sup>。

なお、論述の順序としては、まずはじめに、外務省が編集をになっている『外交青書』のなかで、民主党政権下の日米首脳会談が、どのように、とりあげられているかを紹介する。というのは、「外交青書とは、国際情勢の推移及び日本が行ってきた外交活動の概観をとりまとめたもので、昭和32年(1957年)9月の第1号以来、毎年発行されて」きているからだ\*<sup>5</sup>。つぎに、「首相相動静」欄でとりあげられている日米首脳会談について、着目する。そして最後に、『外交青書』との関連で、日米首脳会談に関する簡単な私見を述べてみたい。

## 2. 『外交青書』にみる日米首脳会談

民主党政権は、2009年9月16日から2012年12月26日までの1,198日間(鳩山由紀夫内閣:2009年9月16日~2010年6月8日〔266日〕,菅直人内閣:2010年6月8日~2011年9月2日〔452日〕,野田佳彦内閣:2011年9月2日~2012年12月26日〔482日〕)つづいた。周知のように、民主党が政権をにぎることとなったきっかけは、前出の第45回衆議院選挙である。このときのマニフェストには、下記のような公約が記されていた\*<sup>6</sup>。

## 「首相動静」でみる日米首脳会談（浅野）

○日本外交の基盤として緊密で対等な日米同盟関係をつくるため、主体的な外交戦略を構築した上で、米国と役割を分担しながら日本の責任を積極的に果たす。

○米国との間で自由貿易協定（FTA）の交渉を促進し、貿易・投資の自由化を進める。その際、食の安全・安定供給、食料自給率の向上、国内農業・農村の振興などを損なうことは行わない。

○日米地位協定の改定を提起し、米軍再編や在日米軍基地のあり方についても見直しの方向で臨む。

これらの文言からも明らかなように、民主党は、主体性をもった外交を展開することで、あらたな日米関係を切りひらいていこうと考えていたにちがいない。その証左に、第93代内閣総理大臣となった鳩山は、「日本は思考停止状態の中で、『アメリカに守られているのだからしょうがないじゃないか』とばかり、アメリカのご機嫌取りに精を出しているが、結果として、地球益はもちろん、国益にすら反する行為となっていることに気付かねばならない」とし<sup>\*7</sup>、「日本の外交は、アメリカ追随型外交といわれるようなものだったことを反省する必要があります」と語っているのだ<sup>\*8</sup>。それゆえ、日米首脳会談の場で、民主党政権の総理大臣がどのような議論を展開するのかが注目されるというわけだ。

では、『外交青書』のなかの「日米政治関係」という項目で、おのおのの日米首脳会談の詳細がもられているので、紹介しよう。

○2009年9月23日：鳩山・オバマ会談<sup>\*9</sup>

9月に就任した鳩山総理大臣は、就任直後に出席した国連総会に際してオバマ大統領と首脳会談を行った。同会談においては、鳩山総理大臣から、日米同盟を日本外交の基軸として重視していく考えを伝達し、両首脳は日米関係の強化で一致するとともに、地域の課題や地球規模の課題についても、建設的で未来志向の日米関係

を築き、従来にも増して協力の幅を広げていくことを確認した。また、北朝鮮、インドネシアを含むアジア太平洋地域情勢及び気候変動、アフガニスタン・パキスタン、核軍縮・不拡散を含む地球規模の課題についても意見交換を行った。また、鳩山総理大臣は、10月の第173回国会における所信表明演説において、日米両国の同盟関係が世界の平和と安全に果たせる役割や具体的な行動指針を、日本からも積極的に提言し、協力していけるような緊密かつ対等な日米同盟を構築し、日米の二国間関係はもとより、アジア太平洋地域の平和と繁栄、更には地球温暖化や「核兵器のない世界」など、地球規模の課題の克服といった面でも、日本と米国とが連携し協力し合う、重層的な日米同盟を深化させていく方針を明らかにした。

○2009年11月13日：鳩山・オバマ会談\*<sup>10</sup>

11月には、オバマ大統領が初めてのアジア歴訪の最初の訪問地として日本を訪れ、鳩山総理大臣と首脳会談を行った。同会談において両首脳は、二国間関係はもとより、アジア太平洋地域や地球規模の課題における日米協力を強化するとともに、2010年の日米安全保障条約締結50周年に向けて、同盟深化のための協議プロセスを開始することで一致した。また、APECを含むアジア太平洋地域における連携強化を確認し、首脳会談終了後には、気候変動交渉に関する日米共同メッセージ、「核兵器のない世界」に向けた日米共同ステートメント及び日米クリーン・エネルギー技術協力に関するファクトシートを発出した。また、オバマ大統領は、東京において米国の対アジア政策に関するスピーチを行い、米国をアジア太平洋国家の一員と位置付け、同地域で米国がリーダーシップを維持・強化していく決意を表明するとともに、日米同盟はアジア太平洋地域の繁栄と安全の基盤であるとし、平等で相互尊重に基づいたパートナーシップという同盟精神を守り続けていくと言明した。

○2010年4月12日：鳩山・オバマ会談\*<sup>11</sup>

## 「首相動静」でみる日米首脳会談（浅野）

4月にワシントンにおける核セキュリティ・サミットに際して、鳩山総理大臣は、オバマ大統領との間で意見交換を行った。日米関係については、鳩山総理大臣から日米同盟を一層深化・発展させたい、また、普天間飛行場の移設につき、5月までに決着させたい旨を述べ、この方向で努力していくこととなった。また、オバマ大統領から、イランの核問題に関して提起があり、同問題についても意見交換が行われた。

### ○2010年6月25・27日：菅・オバマ会談<sup>\*12</sup>

6月、G8・G20サミット出席のためカナダを訪問した際、オバマ大統領と首脳会談を行い、同会談において、両首脳は、日米同盟が日本のみならずアジア太平洋地域の平和と繁栄の礎であることを確認し、引き続き日米で緊密に連携していくことで一致した。また、両首脳は、北朝鮮、イラン、アフガニスタン・パキスタンや、地球規模の課題についても建設的な意見交換を行った。

### ○2010年9月23日：菅・オバマ会談<sup>\*13</sup>

9月の国連総会に際しては、菅総理大臣とオバマ大統領との間で、また前原外務大臣とクリントン国務長官との間で、それぞれ日米首脳・外相会談が行われた。首脳会談では、菅総理大臣が、日米同盟を安全保障、経済、文化・知的・人的交流の三本柱で深化させていきたい旨を述べたのに対し、オバマ大統領は、その3つの分野の重要性について完全に同意する旨を述べた。日米首脳・外相両会談において、中国、北朝鮮などアジア太平洋地域についても議論が行われ、両首脳・大臣は、最近の海洋を巡る問題について関心を持って注視するとともに、今後、日米で緊密に連絡をとっていくことで一致した。外相会談においては、クリントン国務長官から、日米安保条約第5条が尖閣（せんかく）諸島に適用されることが改めて確認された。また、日米首脳・外相両会談において、イランに関し、日本が安保理決議第1929号の履行に付随する措置を決定したこ

とについて、オバマ大統領及びクリントン国務長官がそれぞれ謝意を表明した。

○2010年11月13日：菅・オバマ会談<sup>\*14</sup>

11月、菅総理大臣は、横浜で開催されたAPEC首脳会議出席のため来日したオバマ大統領との間で3回目となる日米首脳会談を行った。同会談で両首脳は、日米同盟の深化・発展について一致し、また、オバマ大統領から菅総理大臣に対し、2011年前半の米国訪問に向けた招待があり、菅総理大臣が訪米した際に、21世紀の日米同盟のビジョンを共同声明のような形で示すことで両首脳は一致した。さらに、中国、北朝鮮を始めとするアジア太平洋地域、国連安保理改革、アフガニスタン・パキスタン、核セキュリティ・核軍縮といった地球規模の課題についても積極的な意見交換が行われた。そして、会談終了後、日米双方で「新たなイニシアティブに関するファクトシート」及び「核リスク低減に関する日米協力」の文書を発表し、また、日本側から、ファクトシート「日米同盟深化のための日米交流強化」を発表した。

○2011年5月26日：菅・オバマ会談<sup>\*15</sup>

5月、G8ドーヴィル・サミット（於：フランス）に際して菅総理大臣は日米首脳会談を行った。菅総理大臣は、米国からの支援への謝意を示しつつ、日本は必ず復旧・復興して世界の諸問題につき米国と連携し、一層力を発揮していきたいと述べ、引き続き日米同盟を深化させていく意思を伝えた。オバマ大統領からは、強い日本は非常に重要であり、国際社会における様々な問題に効果的に参加していくというメッセージを評価したい、日本の復興を支援していくとの応答があった。その上で、両首脳は、日米関係の諸課題、さらに中東情勢、アフガニスタン・パキスタン、北朝鮮に関して意見交換を行った。

○2011年9月21日：野田・オバマ会談<sup>\*16</sup>

同月、国連総会に出席した野田総理大臣及び玄葉外務大臣は、それぞれ日米首脳・外相会談を行った。

首脳会談においては、オバマ大統領から、世界の二大経済国として、同盟国である日本と生産的な話し合いを行いたいと述べたのに対し、野田総理大臣から、震災復興・原発事故収束が最優先の課題であるが、発災以前からの内政・外政上の課題を解決し、安定した政権を作るのが自分の使命であると述べ、震災の際の米国からの支援を通じ、日米同盟が日本外交の基軸であるという信念が揺るぎないものとなったと伝えた。両首脳は厳しさを増す国際経済情勢についても意見を交わし、野田総理大臣は、日米の経済が強くあることは世界の繁栄・安定に重要であり、両国が経済成長と財政再建を両立させるとともに、G20等多国間枠組みを通じて緊密に連携していくことが重要であると述べ、欧州債務危機についてはまずは欧州の迅速な対処が不可欠であるとの考えを示した。また、両首脳は、ホノルルAPECで具体的な成果が得られるよう緊密に協力していくことで一致した。

○2011年11月12日：野田・オバマ会談<sup>\*17</sup>

11月には、野田総理大臣及び玄葉外務大臣がAPEC首脳会議及び閣僚会議出席のためハワイを訪れ、それぞれ日米首脳会談・外相会談を行った。

日米首脳会談においては、野田総理大臣からは、アジア太平洋地域における米国の存在感が高まっていることに非常に勇気付けられている、この地域における経済のルールや安全保障秩序の構築などにおいて日米両国で緊密に連携していきたいと述べた。また、野田総理大臣から、TPP交渉参加に向けて関係国との協議に入ることとしたとオバマ大統領に伝えた。そして、両首脳は、EASを翌週に控え、EASを地域の政治や安全保障の課題を扱う主要なフォーラムにすべきとの点で一致した。

○2011年12月20日：野田・オバマ「電話」会談<sup>\*18</sup>

翌20日朝には、野田総理大臣とオバマ大統領との間で日米首脳電話会談が行われ、両国で緊密に連携していくことが確認された。

○2012年4月30日：野田・オバマ会談<sup>\*19</sup>

3年ぶりに実現した総理大臣訪米は、4月29日から5月1日までの3日間にわたり行われ、6年ぶりとなる日米共同声明（「未来に向けた共通のビジョン」）を発表したほか、合計約2時間にわたり日米首脳会談と日米首脳昼食会が行われた。同会談では、「共通ビジョン」を基礎に、日米同盟を更に深化・発展させていくことで一致した。アジア太平洋地域における協力については、野田総理大臣から、EAS・APECといった枠組みも活用しながら、地域における秩序とルール作りに日米が主体的な役割を果たすべきことや中国との協力の重要性を強調し、両首脳は中国の国際社会での積極的な役割に期待することで一致した。また、在日米軍再編については、両首脳は、2006年の「再編のロードマップ」の計画を調整した4月27日の日米安全保障協議委員会（「2+2」）共同発表を着実に実施していくことに合意した。さらに、環太平洋パートナーシップ（TPP）協定やエネルギー協力などの日米経済関係、青少年交流や日米桜寄贈百周年などの文化・人的交流、さらには北朝鮮やミャンマーといった地域情勢、イラン、アフガニスタンといった地球規模の課題など幅広い分野について議論がなされた。

○2012年11月14日：野田・オバマ「電話」会談<sup>\*20</sup>

11月6日、オバマ大統領が再選を果たしたことを受け、直ちに野田総理大臣から祝意のメッセージを送り、14日には日米首脳電話会談が行われた。野田総理大臣は日米二国間の課題のみならず、アジア太平洋地域や地球規模の課題についても今後もオバマ大統領



「首相動静」でみる日米首脳会談（浅野）

と協力したいと伝えたのに対し、オバマ大統領は、世界が直面する課題への取組において引き続き緊密に協力していきたいと述べ、両首脳は今後とも日米同盟を深化・発展させていくことを確認した。

○2012年11月20日：野田・オバマ会談\*<sup>21</sup>

ASEAN関連首脳会議出席のためカンボジアを訪問していた野田総理大臣は、オバマ大統領と首脳会談を行った。オバマ大統領は、地域の繁栄と安全にとっての礎石である日米関係を「特別な同盟関係」と称し、これに応じて、野田総理大臣も、東アジアの安全保障環境が厳しさを増す中で、日米同盟の重要性がかつてなく高まってきていることを強調した。さらに、両首脳は、TPP協定を始めとする日米の経済関係について、日米間の貿易・投資関係の強化及びアジア太平洋地域の経済統合の推進に取り組んでいくことを確認した。

『外交青書』をみるかぎり、3回の鳩山・オバマ会談、4回の菅・オバマ会談、4回の野田・オバマ会談および2回の野田・オバ

【図表1 『外交青書』にみる民主党政権下の日米首脳会談】

日 時	日本側	形 態
2009年9月23日	鳩山由紀夫	直 接
2009年11月13日	鳩山由紀夫	直 接
2010年4月12日	鳩山由紀夫	直 接
2010年6月25・27日	菅 直人	直 接
2010年9月23日	菅 直人	直 接
2010年11月13日	菅 直人	直 接
2011年5月26日	菅 直人	直 接
2011年9月21日	野田佳彦	直 接
2011年11月12日	野田佳彦	直 接
2011年12月20日	野田佳彦	電 話
2012年4月30日	野田佳彦	直 接
2012年11月14日	野田佳彦	電 話
2012年11月20日	野田佳彦	直 接

マ「電話」会談がおこなわれてきたことがわかる (図表 1 参照)。

### 3. 「首相動静」でみる日米首脳会談

しかしながら、民主党政権下の1,198日間の「首相動静」欄には、「日米首脳会談」という語は、わずか5回しか登場しない。

○首相動静 鳩山首相 (同23日) 午前、ニューヨーク市内のホテルで、オバマ米大統領と日米首脳会談<sup>\*22</sup>。

○首相動静 13日・14日 鳩山首相 【午後】6時42分、官邸玄関でオバマ米大統領を出迎え。46分、日米首脳会談<sup>\*23</sup>。

○首相動静 29日 野田首相 【午後】2時50分、羽田空港。53分、報道各社のインタビュー。3時20分、日米首脳会談のため、政府専用機で米国に向け同空港発<sup>\*24</sup>。

○首相動静 野田首相 (現地時間30日) 午前、ワシントン近郊のアーリントン国立墓地で献花。ホワイトハウスで日米首脳会談<sup>\*25</sup>。

○首相動静 2日 野田首相 【午後】0時35分、日米首脳会談を終え、米国から政府専用機で羽田空港着<sup>\*26</sup>。

だが、うえの記述ではふれられていないものの、現実には、菅政権時に、横浜で開催されたAPEC (アジア太平洋経済協力会議) の折り、バラク・オバマ大統領が来日し、菅と首脳会談をおこなっているのである<sup>\*27</sup>。

ちなみに、自民党政権のときにまで、検索の範囲をひろげても、『朝日新聞』の「首相動静」欄に、「日米首脳会談」のワードがあるのは、上記の5件をふくめ、わずか18件だけである (2015年2月1日現在)。

○首相動静・11日 村山首相 午後1時、外務省の柳井俊二外務審議官、折田正樹北米局長らとAPEC大阪会議、日米首脳会談

「首相動静」でみる日米首脳会談（浅野）

の勉強会。野坂官房長官同席\*28。

○首相動静・15日 村山首相 【午後】3時6分、村上正邦参院自民党幹事長。10分、小倉外務審議官、川島裕外務省総合外交政策局長、平林博内閣外政審議室長らと日米首脳会談の勉強会。野坂長官同席\*29。

○首相動静・23, 24日 橋本首相 ▼24日 午前、国連本部で包括的核実験禁止条約（CTBT）署名式。クリントン米大統領の一般討論演説を傍聴。米国連代表部で日米首脳会談。＝現地時間\*30

○首相動静・18日 森首相 【午後】5時14分、羽田空港。35分、日米首脳会談のため麻生経済財政担当相らとともに政府専用機でワシントンに向け、同空港発\*31。

○首相動静・15日 小泉首相 【午後】4時5分、安倍副長官、岡本行夫内閣官房参与、加藤駐米大使、大島正太郎外務審議官。日米首脳会談の勉強会\*32。

○首相動静・18日 小泉首相 【午前】10時4分、東京・麻布台の外務省飯倉公館。16分、日米首脳会談\*33。

○首相動静 16日 小泉首相 【午前】10時10分、京都市上京区の京都迎賓館。12分、ブッシュ大統領と日米首脳会談\*34。

○首相動静 15日 福田首相 【午後】5時55分、羽田空港。6時22分、日米首脳会談のためワシントンに向け政府専用機で同空港発\*35。

○首相動静 17日 福田首相 【午後】10時53分、米国・ワシントンでの日米首脳会談を終えて政府専用機で羽田空港着\*36。

○首相動静 23日 麻生首相 【午後】8時23分、羽田空港。51分、日米首脳会談のため、政府専用機で米ワシントンに向け出発\*37。

○首相動静 24日 麻生首相（同24日）午前、ホワイトハウスでオバマ米大統領と日米首脳会談\*38。

○首相動静 21日 安倍首相 【午後】5時2分、報道各社

のインタビュー。25分, 羽田空港。51分, 日米首脳会談のため, 政府専用機で米国に向け同空港発。岸田外相同行<sup>\*39</sup>。

○首相動静 24日 安倍首相 【午後】1時34分, 日米首脳会談を終え, 米国から政府専用機で羽田空港着<sup>\*40</sup>。

これまで, 日米首脳会談が, 都合124回開催されてきたこととてらしあわせてみると, 「日米首脳会談」ということばで検索したのでは, 不十分であるということがわかる<sup>\*41</sup>。そこで, 「首相動静」欄のなかに, 米国大統領の名前を入れて, 記事を検索することとする。民主党政権のカウンターパートは, バラク・オバマ大統領であるので, 「首相動静」に, 「オバマ」の名があるときを抽出してみると, 以下のような記事が得られる。

○首相動静 鳩山首相 (同23日) 午前, ニューヨーク市内のホテルで, オバマ米大統領と日米首脳会談。午後, ロシアのメドベージェフ大統領と日ロ首脳会談<sup>\*42</sup>。

○首相動静 鳩山首相 (現地時間23日) 午後, ジャパン・ソサエティー主催昼食会。ニューヨーク市内のホテルでオーストラリアのラッド首相と日豪首脳会談。韓国の李明博大統領と日韓首脳会談。同市のメトロポリタン美術館でオバマ大統領夫妻主催のレセプションに出席。同市内のホテル泊<sup>\*43</sup>。

○首相動静 10日 鳩山首相 【午前】8時25分, オバマ米大統領と電話会談。49分, 松井副長官<sup>\*44</sup>。

○首相動静 13日・14日 鳩山首相 【午後】6時42分, 官邸玄関でオバマ米大統領を出迎え。46分, 日米首脳会談。8時33分, 共同記者会見。9時13分, 公邸。14分, 首相主催の夕食会。10時40分, 公邸玄関でオバマ大統領を見送り。11時57分, 羽田空港<sup>\*45</sup>。

○首相動静 12, 13日 鳩山首相 (現地時間12日) 午前, 政府専用機で米ワシントン近郊のアンドリュース空軍基地着。午

## 「首相動静」でみる日米首脳会談（浅野）

後、ワシントン・コンベンション・センターでベトナムのグエン・タン・ズン首相と会談。ブラジル大使公邸でブラジルのルラ大統領と会談。マリオット・ワードマン・パーク・ホテルで中国の胡錦濤国家主席と会談。コンベンション・センターでオバマ米大統領の出迎えを受ける。欧州連合（EU）のファンロンパイ首脳会議常任議長（EU大統領）と会談。核保安サミット首脳との夕食会でオバマ米大統領と意見交換。ホテル「ウィラード・インターコンチネンタル」で同行記者団のインタビュー。同ホテル泊<sup>\*46</sup>。

○首相動静 28日 鳩山首相 【午前】7時58分、公邸で平野官房長官、松野副長官、河相副長官補。8時5分、オバマ米大統領と電話。平野、松野、河相各氏同席。30分、国会<sup>\*47</sup>。

○首相動静 5日6日 ▼菅新首相 ▽6日【午前】0時10分、オバマ米大統領と電話会談。仙谷、古川両氏、福山外務副大臣、河相官房副長官補、藪中事務次官ら同席。45分、ホテルニューオータニ泊<sup>\*48</sup>。

○首相動静 菅首相（現地時間25日）午後、主要国首脳会議（G8サミット）会場のカナダ・ハンツビル市のホテルでハーパー・カナダ首相による出迎え。オバマ米大統領と立ち話。ファンロンパイEU首脳会議常任議長（EU大統領）、バローゾ欧州委員長と立ち話。G8首脳と昼食会。写真撮影。メドベージェフ・ロシア大統領と立ち話。G8とアフリカ7カ国首脳の拡大会合。同会合に中南米3カ国首脳を加えた拡大会合。写真撮影。ユースサミット参加者と懇談。G8首脳と夕食会。カナダ人歌手によるコンサートを鑑賞。同市内のホテル泊<sup>\*49</sup>。

○首相動静 菅首相（現地時間27日）午後、カナダ・トロント市のホテルで、20カ国・地域首脳会議（G20サミット）出席者と記念撮影。ユースサミットに参加したG20各国の若者と懇談。各国首脳と昼食会。G20首脳会議。国際メディアセンターで内外記者会見。同市内のホテルで、オバマ米大統領と会談。岡田外相、野田財務相同席。同行記者団インタビュー。同市内のピアソン国際空

港。伸子夫人とともに、政府専用機で同空港発<sup>\*50</sup>。

○首相動静 菅首相 (現地時間23日) 午後、米ニューヨークの国連本部で潘基文事務総長主催の昼食会。安保理首脳会合に出席、演説。宿泊先のインターコンチネンタルホテルで休憩。ウォルドルフ・アストリアホテルでオバマ米大統領と首脳会談。ミレニアムUNプラザホテルで国連邦人職員と懇談。同行記者団インタビュー。インターコンチネンタルホテル泊<sup>\*51</sup>。

○首相動静 13日 菅首相 【午前】9時12分、横浜市西区の横浜ロイヤルパークホテル。29分、アジア太平洋経済協力会議(APEC) CEOサミットに出席、あいさつ。46分、宿泊先のヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル。10時36分、パシフィコ横浜でオバマ米大統領と会談。【午後】0時2分、インターコンチネンタルホテルでAPEC各国首脳を出迎え<sup>\*52</sup>。

○首相動静 12日 菅首相 【午前】0時15分、オバマ米大統領と電話会談。松本外相、高橋外務副大臣、外務省の梅本北米局長、福山官房副長官同席。40分、枝野官房長官、福山副長官<sup>\*53</sup>。

○首相動静 17日 菅首相 【午前】7時47分、官邸で福山官房副長官。8時30分、枝野官房長官、経産省の松永事務次官、細野資源エネルギー庁長官加わる。44分、全員出る。10時22分、オバマ米大統領と電話。松本外相、外務省の梅本北米局長同席。【午後】0時33分、民主党の斎藤勁国対委員長代理<sup>\*54</sup>。

○首相動静 30日 菅首相 【午前】11時15分、オバマ米大統領と電話。福山副長官、外務省の梅本北米局長同席。【午後】0時、民主党の寺田学衆院議員<sup>\*55</sup>。

○首相動静 菅首相 (現地時間26日) 午後、ホテル・ロワイヤル・バリエールでオバマ米大統領と会談。レストラン・レシロフでG8首脳とワーキングディナー。ホテル・ノルマンディー・バリエール泊<sup>\*56</sup>。

○首相動静 1日 ▼野田新首相 【午後】10時1分、財務省。40分、オバマ米大統領と電話会談。11時9分、ホテルニューオ

「首相動静」でみる日米首脳会談（浅野）

ータニ<sup>\*57</sup>。

○首相動静 野田首相（現地時間21日）午後、米ニューヨークの国連本部でオバマ米大統領と会談。インターコンチネンタルホテルで同行記者団のインタビュー。同ホテルでカナダのハーパー首相と会談。ル・パーカー・メリディアン・ニューヨークホテルで韓国の李明博大統領と会談。国連本部で潘基文国連事務総長と会談。インターコンチネンタルホテルで国連邦人職員と懇談。同ホテル泊<sup>\*58</sup>。

○首相動静 野田首相（現地時間12日）午前、米ハワイ・ホノルルの国立太平洋記念墓地で献花。カカアコ臨海公園で愛媛県立宇和島水産高校の実習船「えひめ丸」の慰霊碑前で黙祷（もくとう）、献花。シェラトンワイキキホテルで中国の胡錦濤国家主席と会談。午後、ハレコアホテルでオバマ米大統領と会談。ホテル、モダンホノルルでロシアのメドベージェフ大統領と会談。プリンスホテルワイキキで報道各社のインタビュー。全米商工会議所のドナヒュー会頭。ペルーのウマラ大統領と会談。経団連の米倉弘昌会長。ハレコアホテルでオバマ米大統領夫妻主催の夕食会。プリンスホテルワイキキ泊<sup>\*59</sup>。

○首相動静 20日 野田首相 【午前】8時45分、官邸。55分、安全保障会議。9時38分、長島首相補佐官。10時2分、閣議。30分、オバマ米大統領と電話協議。45分、川端総務相<sup>\*60</sup>。

○首相動静 27日 野田首相（現地時間27日）午前、韓国・ソウル市のコンベンションセンター「COEX」で、韓国の李明博大統領の出迎え。中国の胡錦濤国家主席、オバマ米大統領らと相次ぎ懇談。核保安サミット全体会合。ロシアのメドベージェフ大統領と懇談。各国首脳と写真撮影。午後、各国首脳とワーキングランチ。同市のロッセホテルで報道各社のインタビュー。政府専用機でソウル市の金浦空港発<sup>\*61</sup>。

○首相動静 野田首相（現地時間30日）午後、ホワイトハウスでオバマ米大統領主催の昼食会。共同記者会見。ブリアハウス

(迎賓館) で米航空宇宙局 (NASA) のボールデン長官や宇宙飛行士の若田光一さんが表敬。ワシントン市内のナショナル・ジオグラフィック協会でクリントン米國務長官主催のレセプションと夕食会。ホテル「ウィラード・インターコンチネンタル」で同行記者団と懇談。ブレアハウス泊<sup>\*62</sup>。

○首相動静 19日 野田首相 (現地時間18日) 午前, メキシコ・ロスカボスのホテル「シェラトン」でインドネシアのユドヨノ大統領と会談。午後, ホテル「ベンタナ」でロシアのプーチン大統領と会談。ホテル「メリア・カボ・レアル」で報道各社のインタビュー。コンベンションセンターでオバマ米大統領らと立ち話。主要20カ国・地域 (G20) 首脳会議に出席。ワーキングディナー。政府専用機でロスカボス国際空港発。給油のため米国のロサンゼルス国際空港着<sup>\*63</sup>。

○首相動静 14日 野田首相 【午後】11時40分, オバマ米大統領と電話。50分, 終了<sup>\*64</sup>。

○首相動静 野田首相 (現地時間20日) 午前, プノンペンの首相府で日・東南アジア諸国連合 (ASEAN) グローバル・ダイアログ。オバマ米大統領と会談。報道各社のインタビュー。インドのシン首相と会談。

午後, 東アジアサミット (EAS) 昼食会。EAS全体会合。政府専用機でプノンペン国際空港発<sup>\*65</sup>。

このように, 民主党政権時の「首相動静」の欄のなかに, 「オバマ」の名があったのは, 合計24件であった。首相別で見ると, 鳩山: 6件, 菅: 9件, 野田: 9件となっている。重複などを整理したものが, 図表2および図表3である。



【図表 2 「首相動静」でみる民主党政権下の日米首脳会談】

日 時	日本側	場 所
2009年 9月23日	鳩山由紀夫	ニューヨーク
2009年11月13日	鳩山由紀夫	東京
2010年 4月12日	鳩山由紀夫	ワシントンD. C.
2010年 6月25・27日	菅 直人	カナダ（トロント）
2010年 9月23日	菅 直人	ニューヨーク
2010年11月13日	菅 直人	横浜
2011年 5月26日	菅 直人	フランス（ドービル）
2011年 9月21日	野田佳彦	ニューヨーク
2011年11月12日	野田佳彦	ハワイ州ホノルル
2012年 3月27日	野田佳彦	韓国（ソウル）
2012年 4月30日	野田佳彦	ワシントンD. C.
2012年 6月18日	野田佳彦	メキシコ（ロスカボス）
2012年11月20日	野田佳彦	カンボジア（プノンペン）

【図表 3 「首相動静」でみる民主党政権下の日米首脳電話会談】

日 時	日本側
2009年11月10日	鳩山由紀夫
2010年 5月29日	鳩山由紀夫
2010年 6月 6日	菅 直人
2011年 3月12日	菅 直人
2011年 3月17日	菅 直人
2011年 3月30日	菅 直人
2011年 9月 1日	野田佳彦
2011年12月20日	野田佳彦
2012年11月14日	野田佳彦

#### 4. 結び

ここで、注目したいのは、図表3の日米首脳電話会談の存在である。前出の『外交青書』には、野田政権下での2度の日米首脳電話会談については言及がなされているものの、それ以外の電話会談についてはふれられていない。しかしながら、たとえば、2011年3月

12日の日米首脳電話会談は、東日本大震災発生翌日のものであり、きわめて大きな意味を有していたはずだ。なぜなら、「3月11日の東日本大震災に際し、日米両国は緊密に連携し、未曾有の危機への対応に当たった」からである<sup>\*66</sup>。

また、日米両首脳が直接、顔をあわせた会談であっても、『外交青書』でとりあげられていないものもある。それが、2012年3月27日と6月18日の野田・オバマ会談である。それでは、なぜ、これら2つの会談についての言及が『外交青書』のなかでなされていないのであろうか。新聞報道をみると、前者の会談については、「オバマ大統領とは、全体会合の直前に首相から『日米で連携して北朝鮮の自制を求めていかなければいけない』。大統領は『その通りだ。この問題にしっかり取り組まなければならない』と応じた。その間2～3分」と伝えられている。このときは、韓国(ソウル)で開催されていた「核保安サミットに出席した野田佳彦首相は27日、全体会合の合間を縫って、各国首脳と相次いで懇談した」のであった<sup>\*67</sup>。また、後者に関しては、「野田佳彦首相とオバマ米大統領は18日、メキシコ・ロスカボスでの主要20カ国・地域(G20)首脳会議の会場で立ち話をした。日本のTPP交渉参加に向け日米両国の協議を進めるよう努力することを確認。メキシコが18日に米国など交渉9カ国の同意取り付けを終え参加を決めたことなど、TPPの進展についても話題になった」と報じられていた<sup>\*68</sup>。

おそらく、核保安サミット時の2～3分の懇談とG20の折りの立ち話でしかなかったため、外務省は、これら2つの“会談”を『外交青書』にもろうとはしなかったのであろう。だが、前者に関しては、事前に、「野田佳彦首相は2日、韓国のソウルで26、27両日に開く核安全保障サミットに出席する方向で調整に入った。東京電力福島第1原発事故を踏まえた原子力規制庁の新設などの対応を国際社会に説明する。オバマ米大統領、李明博(イ・ミョンバク)大統領らとの個別会談も模索している。首相周辺が明らかにした」との報道があったことからわかるように、もともと、日米首脳会談

の設定をめざしていたのである\*<sup>69</sup>。したがって、たとえ、2～3分の懇談に終わってしまったとはいえ、この時点で、両首脳が顔をあわせることの意味はあったはずである。また、後者についても、「野田佳彦首相は今回の20カ国・地域（G20）首脳会議でもTPP交渉への参加表明を見送った」ことを受けてのものであり、たとえ、立ち話であっても、その後のTPP（環太平洋パートナーシップ協定）交渉などの動向を考えるうえでも重要な顔あわせであったかもしれない\*<sup>70</sup>。

にもかかわらず、『外交青書』のなかに、これら2つの“会談”に関する記述がいつさいないということになると、外務省にとって、なにか不都合なことがあるのではないかとの勘ぐりをしたくなってしまいかねない。その意味において、時間の多寡にかかわらず、日米両首脳の顔あわせについては、直接のケースであれ、電話の場合であれ、『外交青書』に記録としてのこしていくことが重要ではなからうか。

また、「首相動静」に関しても、日米電話首脳会談について、開始時刻と終了時刻を明記しているのは、2012年11月14日のときだけである。どれほどの時間、日米の両首脳が電話で会話をしたかという点も、両国の関係をみていくうえで、貴重な情報といってよい。その意味から、「首相動静」の記述についても、さらなる充実をしていくことがのぞまれよう。

## 注

- \* 1 『朝日新聞』2014年4月25日、4面。
- \* 2 池上彰『今日の総理』（ビジネス社、2009年）、1－2頁。  
ちなみに、同書では、「朝日新聞に『首相動静』が掲載されるようになったのは、1977年2月の福田赳夫内閣からです」とされている（同上、2頁）。
- \* 3 増田弘「日米首脳会談」川田侃・大島英樹編『国際政治経済辞典』（改訂版）（東京書籍、2003年）、583頁。
- \* 4 「民主党 政権政策Manifesto」（2009年7月）、15頁（[http://archive.dpj.or.jp/special/manifesto2009/pdf/manifesto\\_2009.pdf](http://archive.dpj.or.jp/special/manifesto2009/pdf/manifesto_2009.pdf)〔2015年2月1日〕）。

- \* 5 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/bluebook/> (2015年2月1日)。
- \* 6 前掲「民主党 政権政策Manifesto」(2009年7月), 22頁。
- \* 7 鳩山由紀夫『新憲法試案－尊厳ある日本を創る－』(PHP研究所, 2005年), 251頁。
- \* 8 鳩山由紀夫「アジア外交の基本は『自立』と『共生』」鳩山由紀夫・菅直人『民益論－われら官僚主導を排す－』(PHP研究所, 1997年), 112頁。
- \* 9 外務省編『外交青書2010』(第53号), 60頁。
- \* 10 同上, 60-61頁。
- \* 11 外務省編『外交青書2011』(第54号), 67頁。
- \* 12 同上, 68頁。
- \* 13 同上。
- \* 14 同上, 68-69頁。
- \* 15 外務省編『外交青書2012』(第55号), 82頁。
- \* 16 同上, 82-83頁。
- \* 17 同上, 83頁。
- \* 18 同上, 84頁。
- \* 19 外務省編『外交青書2013』(第56号), 61頁。
- \* 20 同上, 62頁。
- \* 21 同上。
- \* 22 『朝日新聞』2009年9月24日, 2面。
- \* 23 同上, 2009年11月14日, 4面。
- \* 24 同上, 2012年4月30日, 3面。
- \* 25 同上, 2012年5月1日, 3面。
- \* 26 同上, 2012年5月3日, 4面。
- \* 27 首相官邸のホームページには, 「平成22年11月13日午前, 菅総理は横浜で開催されるAPEC首脳会議への出席を前に日本経団連主催のCEOサミットに出席し, あいさつを行いました。その後, アメリカ合衆国のバラック・オバマ大統領と日米首脳会談を行いました」と明記されている (<http://www.kantei.go.jp/jp/kan/actions/201011/13apec.html> [2015年2月1日])。
- \* 28 『朝日新聞』1995年11月12日, 2面。
- \* 29 同上, 1995年11月16日, 7面。
- \* 30 同上, 1996年9月25日, 7面。
- \* 31 同上, 2001年3月19日, 2面。
- \* 32 同上, 2002年2月16日, 4面。
- \* 33 同上, 2002年2月19日, 4面。
- \* 34 同上, 2005年11月17日, 4面。
- \* 35 同上, 2007年11月16日, 4面。
- \* 36 同上, 2007年11月18日, 2面。
- \* 37 同上, 2009年2月24日, 4面。
- \* 38 同上, 2009年2月25日, 4面。
- \* 39 同上, 2013年2月22日, 4面。

「首相動静」でみる日米首脳会談（浅野）

- \*40 同上, 2013年2月25日, 3面。
- \*41 なお, 日米首脳会談の歴史については, 浅野一弘『現代政治の争点-日米関係・政治指導者・選挙-』（同文館出版, 2013年）, 26-29頁を参照されたい。
- \*42 『朝日新聞』2009年9月24日, 2面。
- \*43 同上, 2009年9月25日, 4面。
- \*44 同上, 2009年11月11日, 4面。
- \*45 同上, 2009年11月14日, 4面。
- \*46 同上, 2010年4月14日, 4面。
- \*47 同上, 2010年5月29日, 4面。
- \*48 同上, 2010年6月6日, 2面。
- \*49 同上, 2010年6月27日, 2面。
- \*50 同上, 2010年6月29日, 4面。
- \*51 同上, 2010年9月25日, 4面。
- \*52 同上, 2010年11月14日, 2面。
- \*53 同上, 2011年3月13日, 4面。
- \*54 同上, 2011年3月18日, 6面。
- \*55 同上, 2011年3月31日, 4面。
- \*56 同上, 2011年5月28日, 4面。
- \*57 同上, 2011年9月2日, 4面。
- \*58 同上, 2011年9月23日, 4面。
- \*59 同上, 2011年11月15日, 4面。
- \*60 同上, 2011年12月21日, 4面。
- \*61 同上, 2012年3月28日, 4面。
- \*62 同上, 2012年5月2日, 4面。
- \*63 同上, 2012年6月20日, 4面。
- \*64 同上, 2012年11月15日, 4面。
- \*65 同上, 2012年11月21日, 4面。
- \*66 外務省編, 前掲書『外交青書2012』（第55号）, 81頁。
- \*67 『朝日新聞』2012年3月28日, 4面。
- \*68 同上, 2012年6月20日, 9面。
- \*69 『日本経済新聞』2012年3月3日, 2面。
- \*70 同上, 2012年6月19日（夕）, 3面。